

今後の化学物質管理政策に関する検討会

あらたな化学産業の化学品管理の自主的取り組み GPS/JIPSについて

2012年4月27日
日本化学工業協会
常務理事
庄野 文章



1. プロローグ

1. 国際的な化学品管理の流れ

1.1 各国・各機関の対応

1.2 ICCAの対応

2. GPS/JIPSとは？

2.1 今、化学産業界に求められるもの

2.2 GPS/JIPSの推進のために

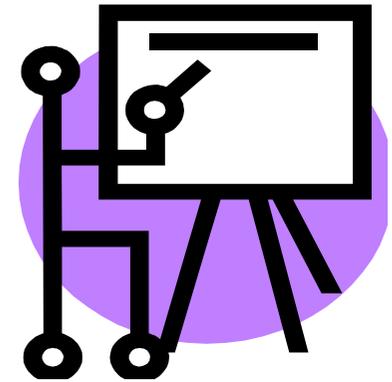
(1) GPS/JIPS推進部会、WGの設置

(2) JIPS RAガイダンス及びPSガイダンスの策定

(3) IT ポータルによる情報共有と公開

(4) GPS/JIPS 今後の展開

3. まとめ 課題と対応



1. 国際的な化学品管理の流れ その発端

1990年代から

- ・従来の消費経済システムが続けば地球環境問題で破綻するという危機感……持続可能な社会経済システムを指向
- ・新興国家の台頭、近代製品の普及、しかし追いつかない安全管理、廃棄処理およびリサイクル対策
- ・国境を越えた環境汚染、危険化学品の移動
……国際的な課題・問題として議論



あらたな課題

ICCM-2 *Emerging Issues UNEP. May 2009 in Geneva*

1. ナノテクノロジー安全性

The challenges of assessing the safety of nanomaterials, the need to review the methods used for testing and assessing safety and the cooperative international work being undertaken in this regard.

2. 製品中の化学物質

Stakes holder Information needs on Chemical article/products such as computers, textiles, toys and costume jewellery, the health risks to end users and the economic risks for producers.

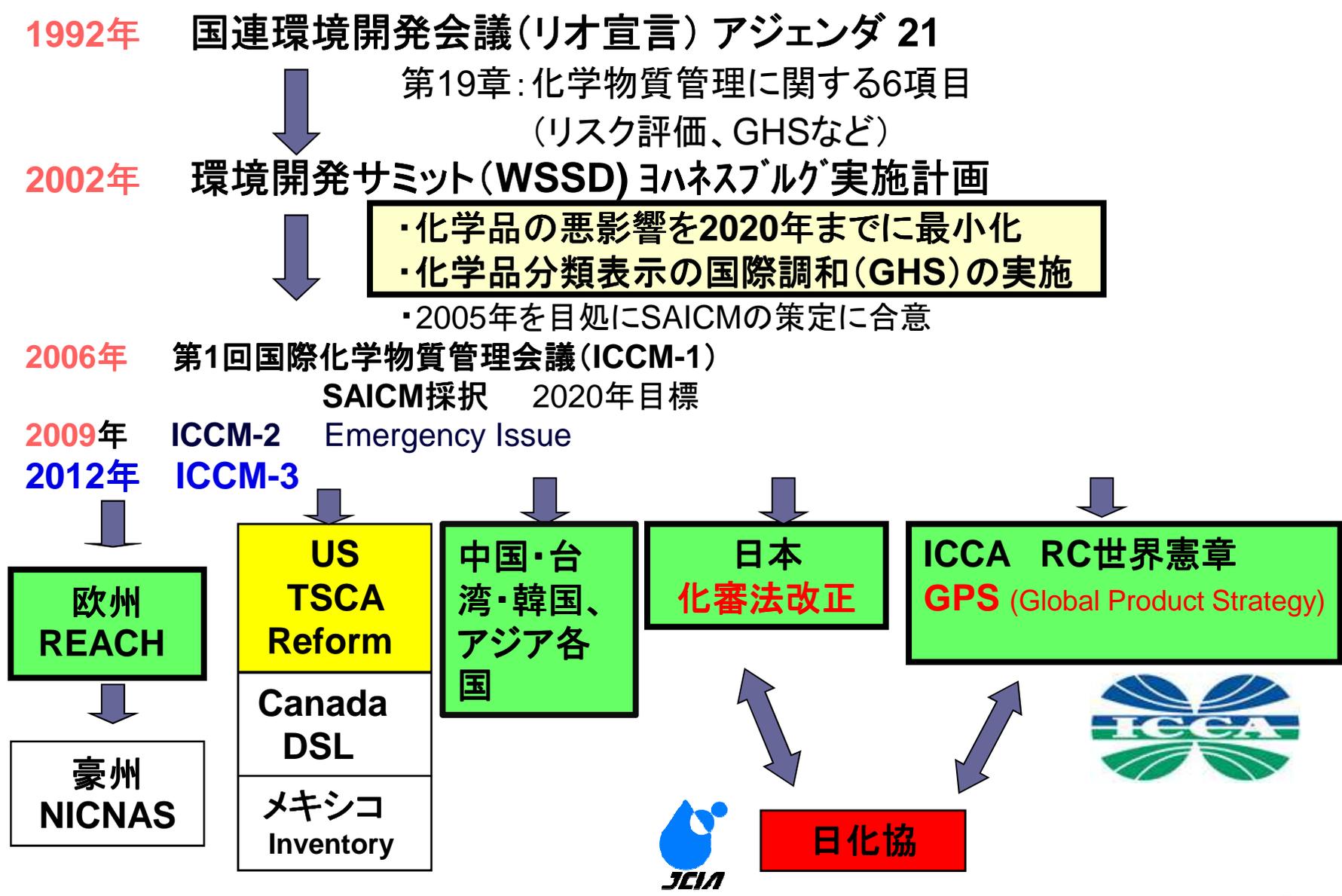
3. 電機製品廃棄物排水問題

Study of the possible effects on human health and the environment in Africa of the trade of products containing lead, cadmium and Mercury. The problem described by the African region was a lack of capacity for the environmentally sound management of electronic wastes

4. 塗料中の鉛

Toxics Link described lead in paints as the biggest source of lead exposure to Children after exposure from gasoline and pointed to a lack of necessary legislation in most developing countries to regulate the use of lead in paints.

1.1 国際的な化学品管理の流れ 各国各機関の対応



(SAICM: 国際的な化学物質管理に関する戦略的アプローチ)

1.1 新たな化学品管理システム 例 REACH

SAICMへの欧州の取り組みとして・・・。

REACH (Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals)

Regulation (EC) No 1907/2006
(Preceding Sentence)



Whereas :

-
- (6) This regulation should contribute to fulfilment of the Strategic Approach to International Chemical Management (SAICM) adopted on 6 February 2006 in Dubai.
-



国際的な化学品管理の流れ

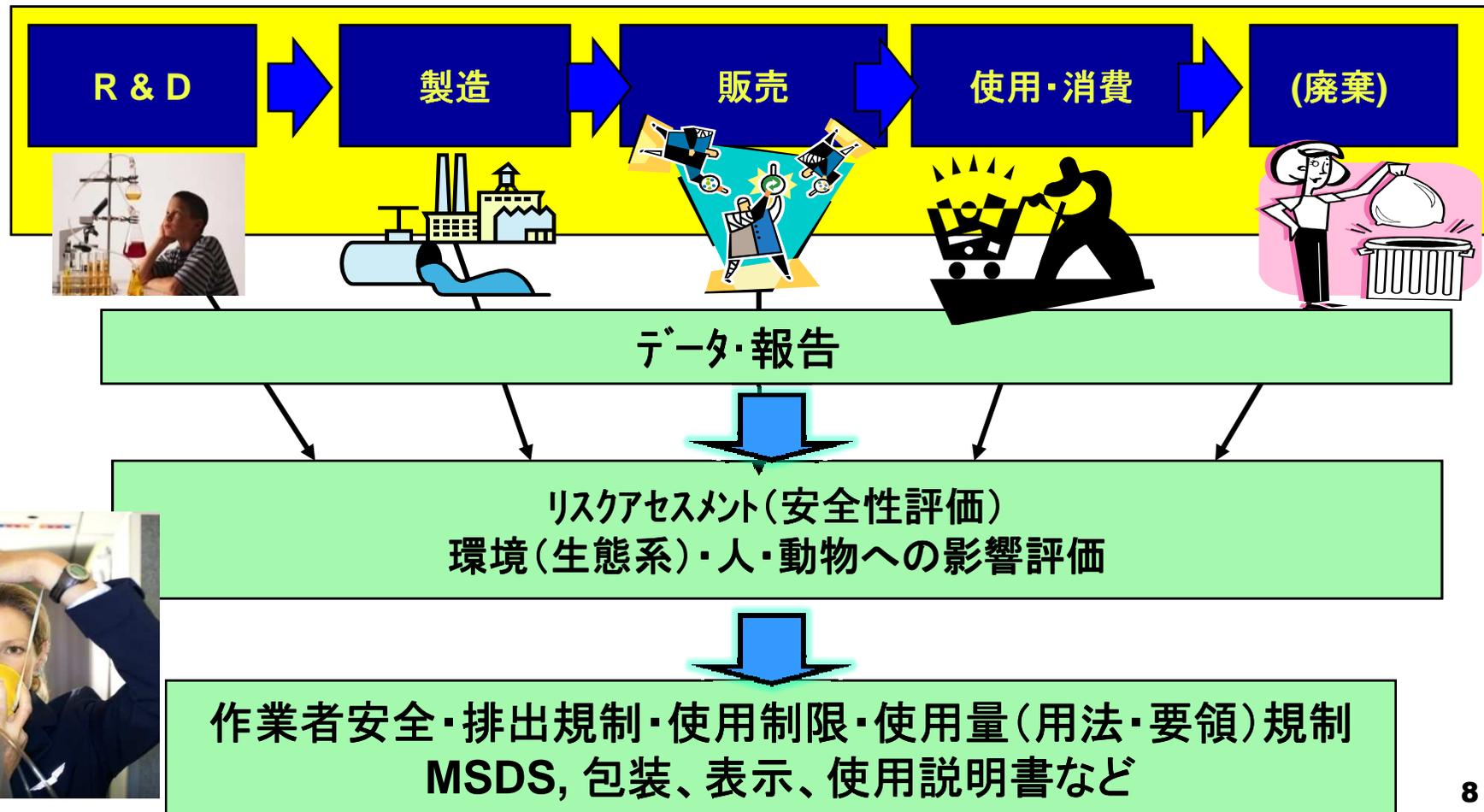
その方向

- ハザード管理からリスク管理へ
一律に禁止、排斥からどう適切に使用するか
- サプライチェーン全体でのリスク低減を目指した
化学品管理を展開 *Product Stewardship*
- 別途、新規物質・材料(ナノマテリアル等)の適切な管理、製品中の化学物質管理への関心



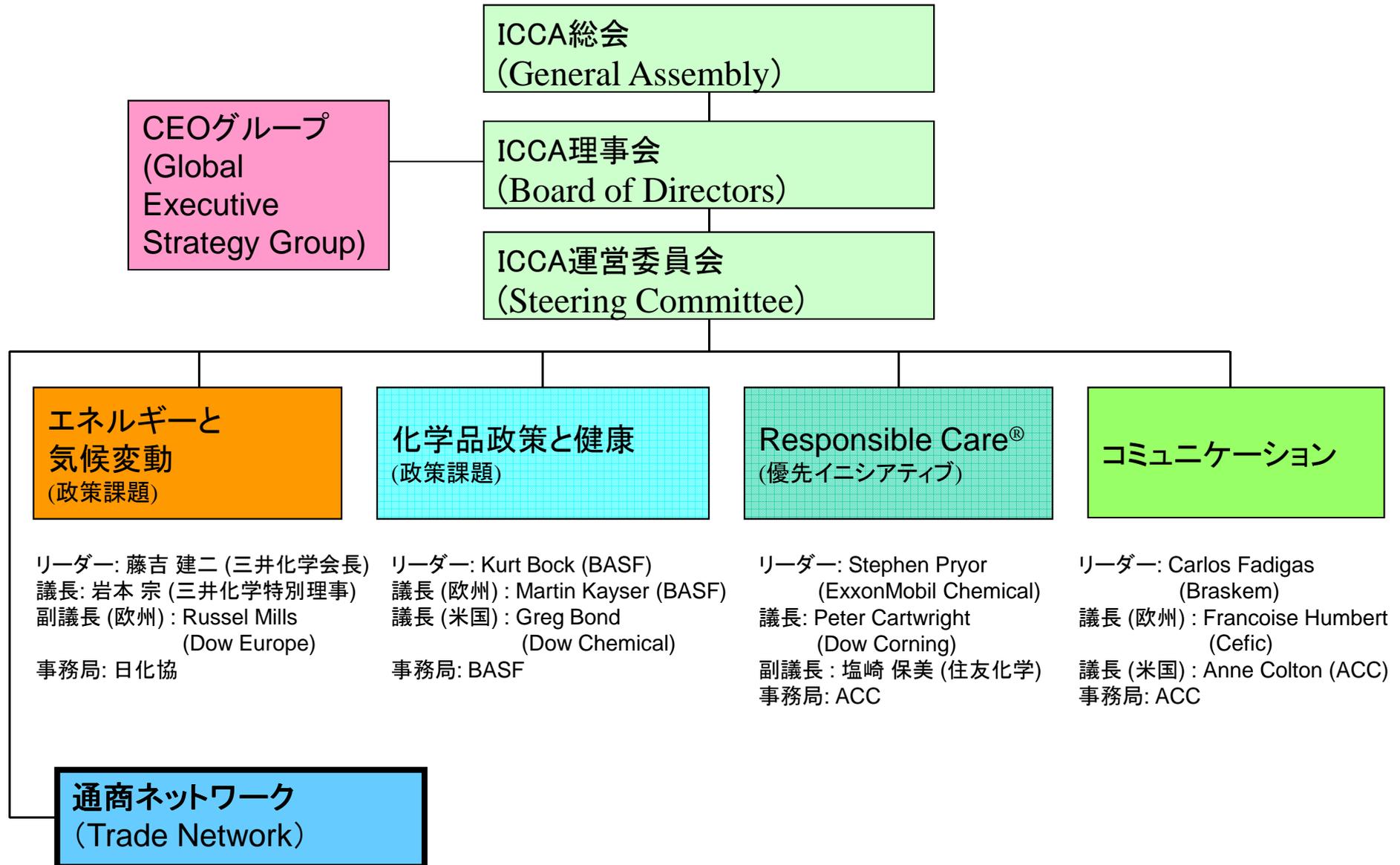
PS (Product Stewardship) とは

“From the cradle to the grave” 顧客に販売した製品について、その製品を使用する次の顧客、最終的には消費者、さらにその製品の廃棄に至るまで、すべての過程でケアしようというもの。そこには、顧客の工場で従業員が化学物質にどれだけ曝露したかといった情報も含まれる。



1.2 ICCA組織図

(2012年2月1日現在、敬称略)



2. GPSとは?



- 2006年 第1回国際化学物質管理会議 (ICCM-1)
トバイ宣言
- ICCAはRC世界憲章とGPSの実施を宣言。
世界の企業CEOに実施宣言書への署名を求める。
- GPS はProduct stewardship を化学産業のみならず顧客およびサプライチェーン全体に拡大、強化していこうというフレームワーク
- 具体的な9項目の戦略(実行)要素



Global Product Strategy 9項目の戦略要素

1. プロダクトスチュアードシップ(PS)プログラムの国際的ガイドラインの作成
2. PSのための管理システムアプローチの開発とPSの実行
3. リスク特性評価およびリスク管理の実行
4. 下流ユーザー業界とリスク評価・管理に関する共同計画を策定、実行
5. 国際政府間組織(UNEP, WHO, OECDなど)とのパートナーシップ構築
6. 公共へのPS情報提供のためのプロセス開発
7. 科学的調査の実施、LRIの推進
8. GPSの各ステップと成果を内外に周知するプロセスの開発
9. 各国政府や政府間組織の化学物質管理施策を適正化するため、Global Advocacyの基本原則を開発

2.1 今、化学産業に求められるもの GPSの意義・目的

化学産業として社会的責任を果たすこと

CSR, Credibility (信頼性)

Compliance (法・規制対応)

Transparency (透明性)

情報の開示・安全性の立証と説明＝

リスクアセスメント、マネジメント

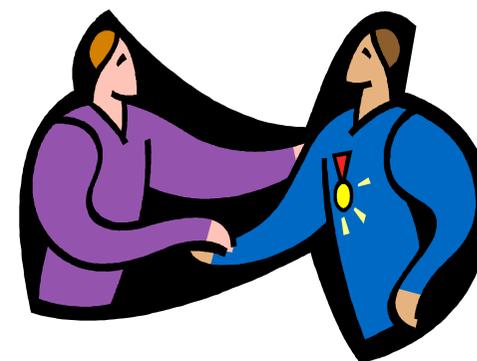
一般社会、顧客に対して、消費者に対して

そのために……

自社の製品に関する情報の開示・共有……

➡ 製品の信頼性の確保と化学物質リスクの最小化
(これまで自社製品の情報開示は限定されていた、あるいは
わかり難かった。)

➡ The main intention of the GPS effort is to increase public confidence and to substantiate that the chemical industry is a reliable partner in the responsible management, production and use of chemicals.



情報公開、共有の必要性

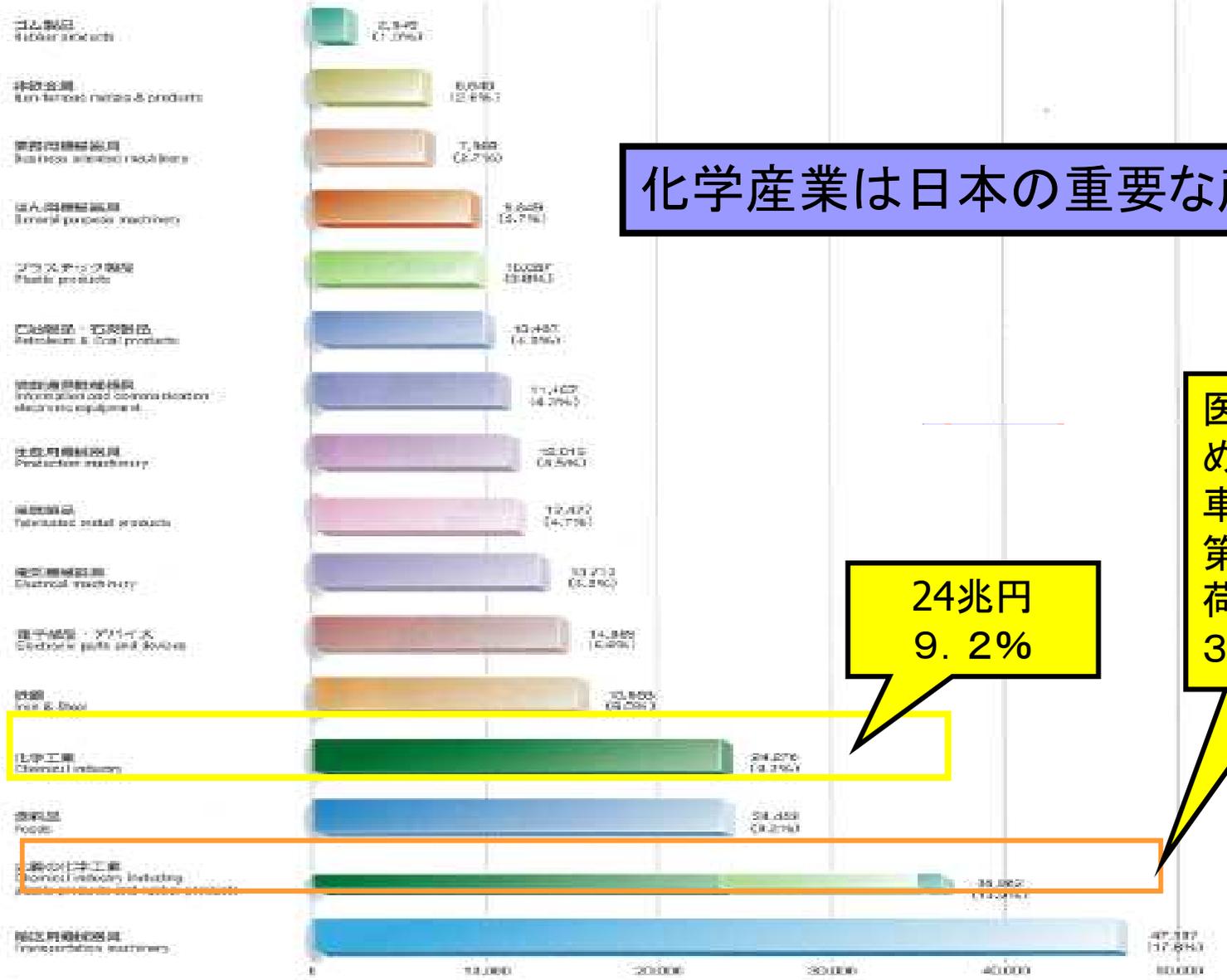
- 本来、化学物質自体に責任があるわけではない。災害、事故は人の化学物質の管理の不適切なことそのための情報が欠如していたことが原因！
- 情報公開(リスクとその管理方法)が評価される時代・・・化学物質の安全性に関する情報を公開し、共有することがビジネスで絶対条件のコンセプトが浸透

ITの進化・発展も、重要な背景



日本における産業別出荷高 2009年

出荷額から見た日本の化学工業の製造業における地位 (2009年) 単位:10億円 ()内:占率 (%)
 Shipment value of the chemical industry in the manufacturing industries in 2009 (¥ billion, %)



化学産業は日本の重要な産業

24兆円
9.2%

医薬品を含めると自動車について第二位の出荷額
37兆円

化学製品の地域別輸出入高

主要市場はアジア、欧州、米国

アジアは7兆円規模

化学製品の地域別輸出入額 (2010年) 単位: 100万円

Exports and imports of chemicals in 2010 by region [¥ million]

